

2021年12月22日
公立大学法人大阪

次期 大阪市立大学及び大阪府立大学の学長予定者を決定

公立大学法人大阪は、大阪市立大学及び大阪府立大学の次期学長予定者を、大阪公立大学の学長予定者である辰巳砂昌弘氏に決定いたしました。

大阪市立大学と大阪府立大学（以降「両大学」）は2022年4月に統合し、新たに大阪公立大学が開学いたしますが、両大学は、両大学の学生（現在の1年次生以上）が在籍する間は引き続き存続いたします。今回、両大学の学長が正式に決定したことにより、令和7（2025）年3月31日までの3大学の運営体制が整いました。大阪公立大学と両大学を一体的に運営するとともに、大阪公立大学および両大学に在籍するすべての学生に対して、引続き良質な教育を提供してまいります。

記

1. 大阪市立大学 次期学長予定者

辰巳砂 昌弘（たつみさご まさひろ）氏 [大阪公立大学学長予定者]
任期：令和4（2022）年4月1日から令和7（2025）年3月31日まで（3年間）
※大阪公立大学学長としての任期と同一

2. 大阪府立大学 次期学長予定者

辰巳砂 昌弘（たつみさご まさひろ）氏 [大阪公立大学学長予定者、現大阪府立大学学長]
任期：令和5（2023）年4月1日から令和7（2025）年3月31日（2年間）＜再任＞
※現大阪府立大学学長任期は令和5（2023）年3月31日まで

※1、2における選考理由及び選考経過、並びに略歴につきましては、別紙をご参照ください。

第2回大阪公立大学メディア懇談会（2022年2月上旬開催予定、現在調整中）において、大阪公立大学、大阪市立大学、大阪府立大学の執行部体制を公表する予定です。

※メディア懇談会の詳細は、確定次第ご案内させていただきます。

【本件に関するお問合せ先】

公立大学法人大阪
事務局 総務部 総務課
（大阪市立大学に関すること）06-6605-2011
（大阪府立大学に関すること）072-254-8419

大阪市立大学学長予定者の選出について

1 次期学長予定者

辰巳砂 昌弘（たつみさご まさひろ）氏

〔大阪公立大学学長予定者、現大阪府立大学学長〕

2 次期学長の任期

令和4（2022）年4月1日から令和7（2025）年3月31日まで（3年間）

※大阪公立大学学長としての任期と同一

3 選考理由

大阪市立大学は、現在、国内外の大学間競争の厳しさが増す中、大阪の地域活性化に寄与し大阪の発展をけん引する「知」の拠点として、大阪府立大学との統合による大阪公立大学の開学に向けて取り組んでいるところである。

令和4（2022）年4月からは、新しく発足する大阪公立大学と、引き続き存続する大阪市立大学とを一体として機能的に運営していく必要がある。

学長選考会議において、様々な角度から慎重に選考を行った結果、選考委員全員一致で、辰巳砂昌弘氏が次期学長に相応しいと決定するに至った。

同氏は、平成31（2019）年度より大阪府立大学の学長に就任して以来、コロナ禍という未曾有の状況下にあっても、学長として強いリーダーシップのもと教育・研究・社会貢献の取組を着実に実施し、実績を重ねてきた。令和2（2020）年9月に大阪公立大学の学長予定者として選出されて以降は、両大学の歴史と伝統を守りつつ、「高度研究型大学」と「地域に根差した都市型大学」を両立する大学として、10年後、20年後に世界から存在感高く認められる大学を目指すという強い信念をもって両大学を先導しており、またその誠実な人柄は両大学の関係者から幅広い信頼を得ている。

また、同氏は大阪市立大学の進取の気風あふれる建学の精神や大学の理念を十分理解し、それらを大阪公立大学でも誇るべきものとして守っていく決意とともに、歴代学長が掲げてきた目標・戦略を継承し、大阪公立大学の運営と整合性をとりながら発展させるという熱意にあふれている。

あわせて、同氏は人格が高潔であり、研究者として、現在も第一線で、持続可能な社会に寄与する全固体電池の研究を続けており、学識に優れた人物である。

以上のことから、大阪市立大学の学長として、教職員と力を合わせ、大阪公立大学と一体的に運営するとともに、大阪市立大学に在籍するすべての学生のために大学での学びや交流を保証できる人物であると判断した。

4 選考経過

令和3（2021）年10月18日 第1回 学長選考会議 開催

・学長選考対象者の決定

令和3（2021）年11月19日 学長選考対象者の所信表明 受領

令和3（2021）年12月7日 第2回 学長選考会議 開催

・次期学長予定者の決定

大阪府立大学学長予定者の選出について

1 次期学長予定者

辰巳砂 昌弘（たつみさご まさひろ）氏

[大阪公立大学学長予定者、現大阪府立大学学長]

2 次期学長の任期

令和5（2023）年4月1日から令和7（2025）年3月31日（2年間）

3 選考理由

大阪府立大学は、現在、国内外の大学間競争の厳しさが増す中、大阪の地域活性化に寄与し大阪の発展をけん引する「知」の拠点として、大阪市立大学との統合による大阪公立大学の開学に向けて取り組んでいるところである。

令和4（2022）年4月からは、新しく発足する大阪公立大学と、引き続き存続する大阪府立大学とを一体として機能的に運営していく必要がある。学長選考会議において、様々な角度から慎重に選考を行った結果、選考委員全員一致で、現学長である辰巳砂昌弘氏が次期学長に相応しいと判断し、再任を決定するに至った。

同氏は、平成31（2019）年度より大阪府立大学学長に就任して以来、コロナ禍という未曾有の状況下にあっても、学長として強いリーダーシップのもと教育・研究・社会貢献の取組みを着実に実施し、実績を重ねてきた。令和2（2020）年9月に大阪公立大学の学長予定者として選出されて以降は、両大学の歴史と伝統を守りつつ、「高度研究型大学」と「地域に根差した都市型大学」を両立する大学として、10年後、20年後に世界から存在感高く認められる大学を目指すという強い信念をもって両大学を先導しており、またその誠実な人柄は両大学の関係者から幅広い信頼を得ている。

あわせて、同氏は人格が高潔であり、研究者として、現在も第一線で、持続可能な社会に寄与する全固体電池の研究を続けており、学識に優れた人物である。

以上のことから、大阪府立大学の学長として、教職員と力を合わせ、大阪公立大学と一体的に運営するとともに、大阪府立大学に在籍するすべての学生のために大学での学びや交流を保証できる人物であると判断した。

なお、現大阪府立大学学長としての同氏の任期は令和5（2023）年3月31日までであるが、今年度末で現学長の任期が終了する大阪市立大学と同時期に選考を行うことで、大阪公立大学発足時から令和7（2025）年3月31日までの3大学の執行体制を確定させるため、今年度選考を行った。

4 選考経過

令和3（2021）年10月18日 第1回 学長選考会議 開催

・次期学長予定者の決定

【参考】学長選考会議構成委員

<大阪市立大学>

●外部委員（経営審議会委員）

大西 珠枝	玉川大学芸術学部 元教授
土屋 隆一郎	西日本旅客鉄道株式会社 元代表取締役副社長
福島 伸一	株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長

●内部委員（大阪市立大学教育研究審議会委員）

平田 一人	公立大学法人大阪理事兼 医学部附属病院長
櫻木 弘之	大阪市立大学副学長
橋本 文彦	大阪市立大学副学長

<大阪府立大学>

●外部委員（経営審議会委員）

大西 珠枝	玉川大学芸術学部 元教授
土屋 隆一郎	西日本旅客鉄道株式会社 元代表取締役副社長
福島 伸一	株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長

●外部委員（大阪府立大学教育研究審議会委員）

仁科 亮子	大阪府立大学校友会副会長 大阪女子大学同窓会斐文会 理事
-------	---------------------------------

●内部委員（大阪府立大学教育研究審議会委員）

牧岡 省吾	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科長
奥田 邦晴	大阪府立大学 地域保健学域長・ 総合リハビリテーション学研究科長

【参考】予定者略歴

大阪市立大学・大阪府立大学 学長予定者略歴

辰巳 砂 昌弘 (たつみ さご まさひろ)

現 公立大学法人大阪 副理事長 兼 大阪府立大学学長



■ 生年月日

1955年11月8日 (66歳)

■ 学歴・学位等

1978年 3月 大阪大学工学部応用化学科 卒業

1980年 3月 大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻博士前期課程 修了

1984年 11月 工学博士 (大阪大学)

■ 職歴

1980年 4月 大阪府立大学工学部 助手

1988年 9月 米国パデュー大学、米国アリゾナ州立大学 博士研究員 (～1989年8月)

1991年 1月 大阪府立大学工学部 講師

1993年 6月 同工学部 助教授

1996年 4月 同工学部 教授

2005年 4月 公立大学法人大阪府立大学 大学院工学研究科 教授

2011年 4月 同大学院工学研究科 副研究科長

2015年 4月 同大学院工学研究科長

2019年 4月 公立大学法人大阪 大阪府立大学 学長 現在に至る

■ 受賞歴

1995年 10月 The ICG Prize in Memory of Prof. Vittorio Gottardi
(国際ガラス委員会ゴッタルディ賞)

2001年 5月 日本セラミックス協会学術賞

2002年 3月 日本化学会学術賞

2018年 4月 文部科学大臣表彰科学技術賞

2019年 3月 日本化学会賞 他 受賞多数

■ 学会・社会活動

2007年 4月 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員 (～2010年)

2010年 4月 国際ガラス委員会 (ICG) ステアリング委員 (～2013年)

2016年 4月 日本化学会電気化学デビジョン化学電池材料研究会会長 (～2018年)

2017年 4月 電気化学会副会長 (～2018年) 等 歴任

■ 専門

無機材料化学、固体イオニクス、ガラス科学

以上